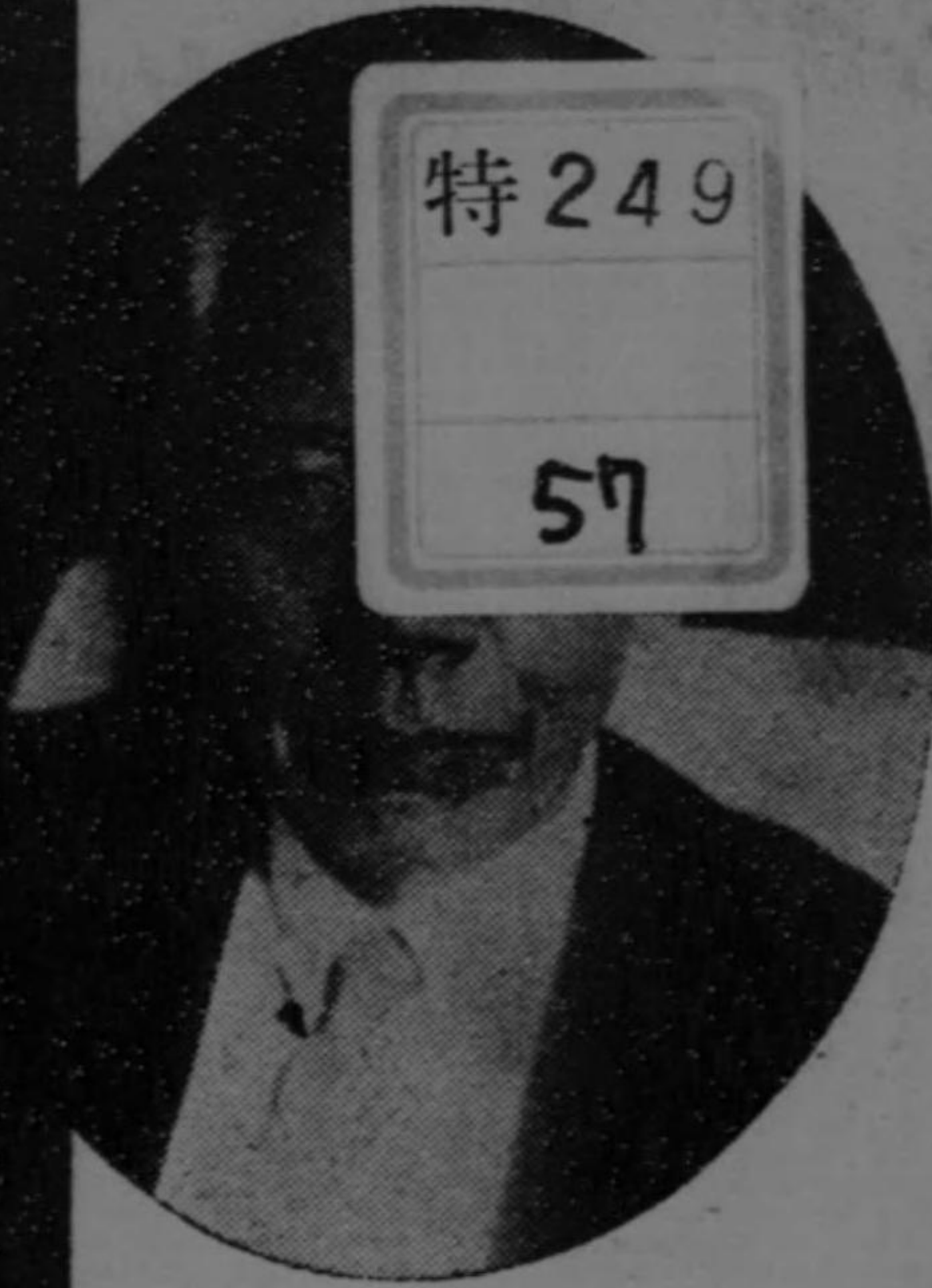


赤心憂國の大獅子吼
事變解決の根本方針

十錢

國際情勢と日本の地位



特 249

57

513

安達謙藏 述



* 0010075000 *

0010075-000

特 249-57

國際情勢と日本の地位

安達謙藏・述

中外産業調査会

昭和14

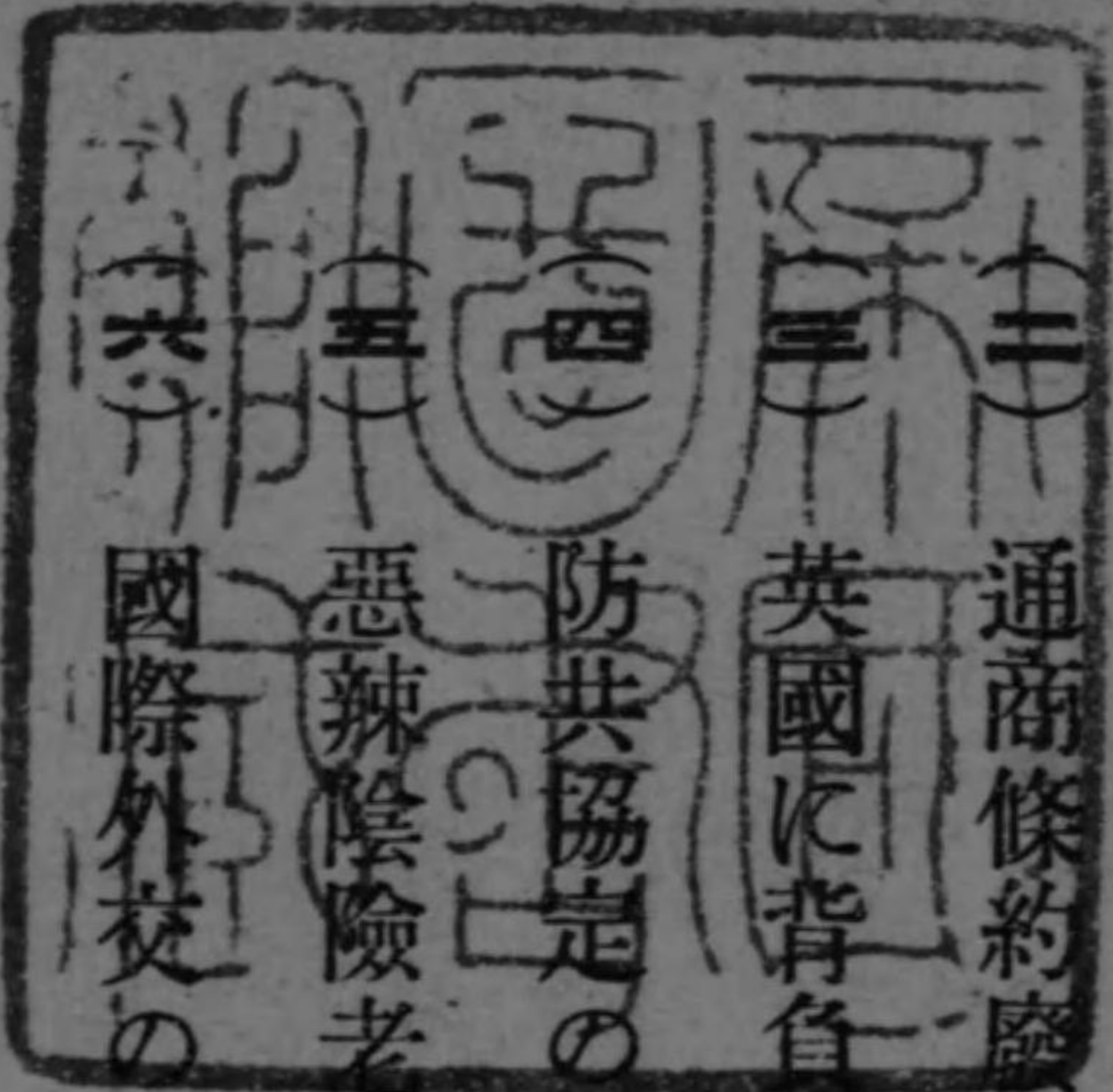
ABJ



兄弟言志
阿兄臨高牧群羊
阿兄徵炎拓僻荒
如逢國南天所命
誓將忠勇報君王

目次

(一)	多情多感勇敢優美なる國民性	(一)
(二)	通商條約廢棄は何を意味するか	(三)
(三)	英國に背負投を食はせた蘇聯	(四)
(四)	防共協定の背信行爲	(五)
(五)	惡辣陰險老獪なる英國	(六)
(六)	國際外交の深刻味	(八)
(七)	長期か短期か歐洲戰爭の前途	(九)
(八)	加藤高明伯の英國觀	(一〇)



(九)	英國の決心は如何	(二三)
(一〇)	獨逸の覺悟は如何	(二三)
(一一)	孤立獨行は大禁物	(二四)
(一二)	第三國の援蔣を斷ち切れ	(二五)
(一三)	事變解決の新面目	(二七)
(一四)	新政權樹立後の急務	(二八)
(一五)	行政機構の病根	(二九)
(一六)	袋の鼠となる勿れ	(三三)
(一七)	大膽果敢に行動せよ	(三五)

國際情勢と日本の地位

安 達 謙 藏 述

(一) 多情多感勇敢優美なる國民性

日支事變の眞ツ只中に於て、第二回の内閣更迭が行はれ、阿部内閣が成立しまして、所謂産聲を揚げるや否や、歐洲に戦争が勃發しました。そこで阿部新内閣は、政綱政策等を發表する前に、まづ歐洲戦争に對する帝國の態度を世界に表明する必要に迫られ、去る四日(九月)の閣議を経て『今次歐洲戦争勃發に際して、帝國政府は之に介入せず、専ら支那事變の解決に邁進せんとす。』

と言ふ簡單なる聲明を發表しました。この聲明文は私の幼少の頃、村夫子の家塾に於て大學か中庸かの簡潔古雅なる文句を讀むやうな心地が致しまして、奥行が深く、含蓄ある文字で、之を強く解釋すれば、今後の變に處しては、如何なる行動をも出来ることになりましますから、私は善意を以て又頗る好意を以て、まづ上出來と讃辭を呈して置き、其實現の方法に就ては、大に注文したきものがあります。

そこで、阿部新内閣に對して、二三の注文をなすと共に、否寧ろ、その以前に於て、國民大衆諸君と我々とは、國際外交の常識に於て再検討をするの必要を感じます。何となれば、我々日本人の國民性は、勇敢にして優美、即ち一方に、勇猛果敢なると共に、他の一方にやさしくして、溫雅なるところがあります。即ち、秀麗なる山川風物の美や、かのやさしき、散り易き櫻の花を眺めて、大和魂を養成した多感多情なる國民性を持つて居

ります。この國民性によつて、歐米列國の國際外交振りを眺めて御覽なさい。

(二) 通商條約廢棄は何を意味するか

私はこゝに、眼前の事實によつて證明しやうと思ひます。

第一米國が先月(五月)突然、我國との通商航海條約を破棄したる、その態度はどうでありますか。之は我國が支那と戰爭を爲しつゝある行動に對する不平不滿の意思表示であります。

私は去る五月十四日、この放送局より講演をしました時に、米國に就いて斯く申して置いたのであります。

「英國は先般來、米國に三拜九拜、裏表から手を代へ品を代へ、日支事件に對し共同動作を取ることに勧誘これ努めて居りましたが、どうやら米

國當局も人民も、漸次彼の勧誘に引き込まれて、反日の感情が大に昂まつて来たやうであります。そこで我國の米國親善論も、悪くはありませんが、世俗の所謂「磯の鮑の片思ひ」で、世界の外交史上の物笑ひとなつてはいけませんから、今度の米國の態度は大に注意を要するものがあります。

と、かやうにラヂオでお話して置いたのですが、その後、幾何ならずして眞に青天の霹靂、通商航海條約の廢棄通告が現はれたのであります。いかに親米主義の人々でも、この信義を無視した米國の行動については、全く辯護の餘地はありますまい。私は恰も豫言者のやうな心地が致したのであります。

(4)

(三) 英國に背負投を食はせた蘇聯

第二には、蘇聯と英佛との軍事同盟問題であります。皆さんも御承知の通り、英國は佛蘭西と手を携へて是非とも蘇聯と軍事同盟を締結しやうとして、數ヶ月間あらゆる苦心をなし、遂に代表全權を蘇聯に派遣して交渉談判をして居ります最中、蘇聯は秘密に獨逸と不可侵條約を締結して、英國に背負投を食はせ、英國をして茫然自失せしめたのであります。併し、英國はこの失敗を敢てしながら、チエンパレン首相は、責を負ふて辭職は致しません。

(5)

(四) 防共協定の背信行爲

第三には、獨逸と我國との防共協定の約束であります。獨逸が、我國とのこの協定があるにも拘らず、何等の豫告なくして、蘇聯と不可侵條約を締結したことは、たしかに信義を破つた行爲に外なりませんので、我國民

が大に驚いたのは當然であります。併し、之を獨逸側から一言辯解せしむるならば、防共協定強化の問題は、近衛内閣時代に提案した問題で、其後遷延又遷延、遂に決せずして半歳を経過し、その間、歐洲の形勢は大に緊迫して底止するところなく、背に腹は代へられず、已むを得ずかゝる行動を取つたのであつて、悪しからず御諒承を乞ふ、と言つて居るやうであります。

(五) 惡辣陰險老獪なる英國

第四には、英國の行動であります。彼がこゝ二百年ばかりの間に於て、印度を征服し、支那を半殖民地とし、其他各方面に屬國又は保護國を造つた外交術の、巧妙老獪なることは言語に絶し、我國も亦、その手に乗せられ、時としては、日英同盟を結んで、東亞の番犬に使はれ、或は又、我國

が少しく、擽頭せんとするや、同盟を廢棄し、九ヶ國條約などを以て我國の喉を扼し、手足を縛したのであります。往年日英同盟廢棄の準備の爲め各殖民地の首腦を集めて、秘密に相談した時の如き、その冷靜深刻なる態度は、到底日本人の爲し得ざるところであります。

我々は、かゝる行動を陰險とか、惡辣とか、乃至老獪とか申しますが、彼等は之を悪いとは思ひません、當然のことだと思つて居るのであります。彼等は個人としては、眞に親切な立派な紳士ですが、それが一度び國際關係となりますと、氷よりも尙、冷かであります。

それは往古より、熾烈なる民族競争、國際競争の間に鍛鍊養成された國民性であります。そこが、先に申しましたやうに、多感多情、果敢にして優美なる我國民性では、到底諒解し得ないのであります。

(六) 國際外交の深刻味

かくの如く、歐洲列強は、甲乙丙丁共に、國際關係に於ては全然、自國の利害本位であります。現實主義であります。一度び自國に不利なる時には、從來の條約でも何でも弊履を捨つるが如く、廢棄してしまふのであります。國際外交の深刻にして、現實主義なることは、一般國民の想像以上であることを、よく體得して置く必要があります。

そこで、從來の行き掛りやら若い時から學んだ學問等に囚はれて、翻然その舊思想を改むることの出來ない人もあるやうであります。この國際政局の緊迫せる現在に於ては、かゝる從來の行き掛りや、學問などに拘泥せず、一意専心、大局に着眼して、時局の處理に對し、眞に舉國一致の基礎を確立したいのであります。

(8)

平沼前總理大臣は、道義外交と言ふことを唱導せられました。眞に結構なことではありますが、それは日本と滿洲と新支那との間にだけ行はれ得るに過ぎないのであります。現在の歐米列強の間には一切行はれ得るものではありません。そこで、我々も歐米列強と應酬交渉をするには、その基礎觀念の置きどころを再検討して、歐米列強との交渉に不覺を取らぬことに注意せねばならぬ、と言ふことを、深く痛感するものであります。

(9)

(七) 長期か短期か歐洲戰爭の前途

次ぎに、一言せねばならぬことは、歐洲に勃發した戰爭の前途であります。即ちこの戰爭は、いよ／＼歐洲全體の大戰爭となつて長期になるか、或は又、獨逸とポーランドの局部的戰爭が一段落を告げた曉に、伊太利などが仲裁に立つて、兎も角平和の解決がつくかと言ふ、二様の見方であり

ます、この戦争の状態が大に擴大して長期になるか、早く解決して短期で収めるかは、東洋の將來、殊に我日本國の立場に、至大の關係があるのであります。

ヒットラーの考では、まづ一舉にポーランドを片づけた後に、伊太利をして仲裁に乗り出さしめ、種々の平和工作に應ずるつもりではなからうかとも思はれますが、この際、英國はどうするか、如何なる態度を執るか、英國の態度こそ最も注意を要する問題で、戦争が擴大して長期となるか、また短期に終るかは、一に掛つて英國の決心如何にあると思はれます。

(八) 加藤高明伯の英國觀

こゝで一寸、二十五年前の歐洲戦争當時の昔話を致します。

當時、我國の内閣は大隈内閣で、加藤高明伯が外務大臣でありました。

私はその下に居て、時々伯の苦心談やら得意談を聞いて居りますが、その中で、伯の英國觀は、今日の場合、参考にもなりますから、こゝに簡単に申上げやうと思ひます。それはかうであります。伯曰く、

「自分は獨逸の國情はよく知らぬ、英國は多少研究して知つて居る、獨逸通の話を聞けば、其富強、其文明、其科學的進歩は、實に偉大にしてエライ、併しながら若干まだ上すべりして居るやうである。英國は遅れて居るかも知れぬ、最早年老ひたかも知れぬ、併しながら、まだくゞ底力がある。それで佛蘭西戰場では英佛の聯合軍は連戦連敗して、遂にドーヴァー海峡まで追ひつめらるゝかも知れぬ。併し英國はそうなつても媾和はせぬ、何とかして最後の勝利を占むるまではやり遂げると思ふ。」
と言つて居られました。この見方はアングロサクソンの民族性の特徴を言ひ現はした言葉として、今なほ記憶に新たなるものがあります。

(九) 英國の決心は如何

然らば、今回の戦争に際して、英國の決心は如何と、その心事を忖度して見ますと、大戦争を避けたいのは山々であります。若しこの儘、仲裁に應じて平和工作に入つたら、その條件の如何に拘らず、獨逸にやられたことになる、こゝて一步獨逸に譲つたら最後、歐洲大陸に於て王座を占むることは出来ない、多年傳統的の勢力は、こゝに全く喪失するのである、それだから今日の場合は、國家興亡の岐るゝところであり、如何に苦しくとも最早目前の利害得失等を超越して、アングロサクソン最後の運命を賭して、大長期戦を覺悟して戦はねばならぬ、と決心して居るのではなからうか、殊に戦時内閣を作つて、イーデンや、チャーチルなどの反獨逸強硬派を閣員に列したチエンバーレン内閣は、そのやうに腰を固めて居るので

はなからうかと思はれます。

(一〇) 獨逸の覺悟は如何

然らば、獨逸は如何。獨逸も亦、前回の歐洲大戦の苦境を充分經驗して居ますので、長期戦の覺悟準備も、相當用意あるものと想像せられます、殊に最近、領土の擴大及び蘇聯との接近等によつて、食料及び軍需資料等の補給も自由になるかと思はれます。又優秀強大なる空軍を有して居りますから、前回の大战當時よりも、餘程有利ではなからうか、そうなれば、この戦争はいよゝゝ長期となつて、長引くものと見なければなりません。それですから、この戦争が短期で済むか、長期となるかは、ポーランドの征服が一段落を告げ、伊太利が仲裁に乗り出した場合の、英國の態度によつて、始めて判断がつくかと思はれます。即ちこゝ數日間の内に、大體の

見込はつきそうであります。亞米利加の態度とか、蘇聯の動靜とかは、その後の問題であります。

(一一) 孤立獨行は大禁物

以上が、緊迫せる國際政局の一斑大要であります。この間に處して、我帝國政府が嚴然たる態度を持し、歐洲戰爭には介入せぬとの餘地を有し而して専ら支那事變の解決に邁進することは、當然であり、必然のことでもあります。

然らば、事變解決に邁進するにしても、いづれの方面より着手するか、若し單に聲明したるのみで、何等着手するところがなければ、それこそ全く國民を欺き、出征將士百萬の勞苦を無にするのみならず、戦死者在天の英靈に對して、全く申譯がありません。從來、往々外交上の立場を説明し

て、自主獨往の文字を用ひることがあります。素より外交國策の最後の吐を、自主獨往に据えて置かねばならぬことは論なきところでありますが、情勢變化の見透しを誤り、或は左顧右眄、斷すべきに斷せず、小田原評議の裡に空しく機を逸した結果、餘儀なく孤立獨行するが如きは、大禁物であります。

(一二) 第三國の援蔣を斷ち切れ

そこで支那事變を解決するには、皇軍の威力で蔣介石を重慶の僻地まで追ひつめたる今日では、第三國の蔣援助の手を斷ち切ることが何よりも最も緊要なことであります。

私は去る五月十四日午後六時二十五分よりこの大日本放送會館新築落成記念講演で、このマイクを通じ、『時局所感』と題して、かう申して居りま

す。

「この時局解決の道程として、第三國に對する態度を一變し、我方より積極的に彼の蔣介石援助に斷乎たる抗議を申込むこととであります。古人の言に「王を射んとせば先づ馬を射よ」と言ふてあります通り、蔣介石を射んとせば、彼を背に乗せて居る英國を、先づ射るのが必要と思はれます。さればと言つて、鐵砲を打ち掛けると言ふ意味ではありません、それは戦争以外の我活動の力で押し切ると言ふ意味であります。」と、かく斷言して申上げたのであります。どうか、私の言ふ力で押し切るといふ意味を、よく／＼玩味していただきたい。

其後、天津租界問題が起りましたして、全國的に反英、排英の輿論が勃發し各都市は勿論、各町村に至るまで大集會が行はれ、その勢は燎原の火の如き有様でありましたことは、皆さんも御承知の通りであります。政府當局

者は國民の意思感情の眞底に、この大潮流が流れて居ると言ふことを、よく注意して居らぬと、悔ひても及ばざる大不覺を取るの虞があると申して置かうと思ひます。

(一三) 事變解決の一新面目

我國現在の外交が、支那事變解決を唯一の方針として邁進する以上は、第三國に對して、徹底的に我國の對支方針、所謂東亞新秩序の建設の意義等に就てよく説明して、その諒解賛同を求め、若し幸に我方針に賛成するものは、之を友邦として提携することにしなければなりません。その賛成とは、單に表面のお世辭ばかりではなく、眞に衷心より賛成して、支那に於ける我行動を援助し、蔣介石撲滅に努力するだけの誠意あるものであらねばなりません。政府當局が、いよく／＼この決心覺悟を以て、第三國の大

公使等と談判したら、各國の意思も明瞭となりますし、こゝに我國は從來の行き掛りやら、感情やらを全然洗ひ去り、平沼さんの所謂白紙に還つてその白紙の上に新しき文字を、墨黒々と認め、我味方の友邦とは親密の交際を結び、我と反對の行動を、直接間接に執るものを敵として邁進すれば、支那事變解決に一新面目を取ることは、必然であります。

(一四) 新政權樹立後の急務

次に、支那事變解決の重大問題は、中央新政權樹立のこととあります。傳聞するところによりますと、當局者の方々が、種々苦心の結果、唯今大にその計劃が進捗したとのことでありますから、その傳聞に信頼して、ここには意見を發表せぬことに致します。

たゞ私が一言致して置きますことは、新政權樹立後に、新政權直屬の支

那軍隊を編成し、日本士官の指揮監督の下に訓練を行ひ、この軍隊を以て共産軍及び匪賊の討伐等をなさしめ、日本軍駐屯の數を、ある程度まで漸次減少する準備をなすことが、急務中の急務だと思ひます。そしてこの軍隊の統帥者に適當の人物を物色し、今尙ほ山東、山西其他各方面に出沒し所謂ゲリラ戦とかをやつて居る支那軍を招きよせ、之を味方として使役するぐらゐの支那式のこと、その人さへ得れば容易に出來さうなものだと思ひます。

尙、當然直ちに着手すべきことは、租借地の處分問題であります。阿部新内閣は、必ずこの問題の處理解決に邁進するものと信じてますが、英國の東京談判再開のゼスチュアに氣をよくし、又々引きずられて、後で後悔をせぬやう、豫め腹帯をしつかり締めてもらひたいものであります。

(一五) 行政機構の病根

私はこの際、姑く話を轉じて内政改革問題に觸れて、一言しやうと思ひます。

新聞紙の傳ふるところによりますと、阿部新内閣に於ては、その政綱の中に行政機構の改革をも取りあげるであらうと傳へられて居ります。併しその改革方針なるものが、單に遞信省と鐵道省とを併合して交通省とし、又農林省と商工省とを併合して産業省とすると言ふが如きことであると思はれば、それは未だ問題の核心に觸れざるものと評さねばなりません。

數年來、内閣制度乃至行政機構の改革が、要求せられて居ります原因は何處にあるかと申しますれば、之を一言にして言へば、現在の内閣制度の下に於ては、一貫せる基本國策を討議し、決定するに適さぬといふのであ

ります。

然らば、何故に現制では、基本國策の討議に不便があるかと申しますと今日の閣僚は總べて各省大臣を兼ねて居る、しかも各省事務は益々複雑多岐に亘るため、その注意し、傾倒するところは、所管の行政事務に限られ政治の大局に着眼する餘裕がなく、各省の立場のみを代表する、これが現制度の病根であります。

故に、行政機構改革の目標は、各省の行政事務に煩はされざる少數の國務大臣を以て、政治の中樞とするところにあります。尤も、陸、海軍、外務大藏の如きは、矢張り國務大臣に於て兼ねるを可と致します。之等の國務大臣と首相及び無任所相を加へた五名乃至七名のものを以て、政治の中樞を把握する以上、之に隸屬する各省の事務大臣(又は各省長官)は、必ずしも之を減ずるに及びません、従つて、省の併合の如きは、必要事ではない

のであります。現に貿易省の如きを新設する要求もあらうし、又現時の興亞院の如きも、事變の進展に伴ひ、一省としなければなるまい。又、眞に東亞新秩序の建設に着手する以上は、眼前の軍事的行動の必要ばかりではなく、東西文化又は、思想融和の上からも、宣傳省か情報省の必要も生ずるのではなからうか。要するに、國力の増進、行政事務の増加に伴ひ、省の増加するのは當然であつて、強ひて之を壓縮するには及ばないのであります。今若し、單純に省の廢合のみを以て、行政機構改革の目標とするならば、それは甚だ不徹底なる改革であつて、恐らく數年ならずして、又元の通りに還元せられるであらうと思ひます。

之を要するに、行政機構の改革の如き、内政革新政策も必要ではあります。何よりも急務なるは支那問題の解決であります。殊に歐洲に戰亂が勃發しましては、尙一層その解決の急務を深く痛感するのであります。恐

らく國民諸君も、行政機構改革の如きは、第二、第三の問題だ、之を後廻しにしてもよい、まづく支那事變の解決に邁進せよ。と注文せらるゝことであらうと思ひます。

(一六) 袋の鼠となる勿れ

さて、この際、支那問題解決のために、第三國と談判を開始せんとするに當り、日本が歐洲戰亂の機會に乗じて、火事場泥棒をやると思はれてはよろしくない、須らく慎重にせねばならぬ、と言ふやうな極く穩和な、姑息な、因循な考が、當局者を支配することを、私は掛念するのであります。若しも私のこの掛念が、事實なりとすれば、事變處理に邁進どころか、却つて退歩するてありませう。

元來、支那問題として解決せらるべき各種の問題は、事變勃發以來の懸

案であつて、一朝一夕に起つた問題ではありません。歐洲戦争が起らうが起るまいが、我國としては是非解決せねばならぬ問題であり、爛頭焦眉の急を要する問題であります。決して餘計な氣兼ねをして、逡巡躊躇するには及ばぬこととあります。自主獨往で進むと言ふことは、何處にも程よくして、あたりさはりのないやうにして、その日暮らして行くことではありません。それで、自主獨往とは、往々臆病者の遁辭となる虞があります。列國競争の熾烈なる今日、世界の趨勢は右するか左するか、そのいつれかを選んで決心しなければならぬやうな境遇に逢着することもあります、そのいつれとも、接近せず、握手もせず、躊躇逡巡、空しく機會を逸して、遂にはどちらからも見離され、全く孤立獨行の極、袋の鼠となることもあります。大に注意反省を要します。

(一七) 大膽果敢に行動せよ

抑も東亞新秩序の建設と、支那の殖民地化を防止すると言ふ主張は、我日の丸の國旗と共に、百尺竿頭に高く掲げられたる我旗印であります。この際、我國は從來の行き掛りや感情などを全然洗ひ去つて、この旗印を押し立て、世界列強に對し聲高らかに呼びかけ、この旗印の下に集り來つて、眞に我國と握手し、東亞に於ける我國の動向に賛同助力せんと言明する者は味方であり、賛同せぬまでも中立を嚴守して、絶対に蔣介石援助をなさざるものは、純眞の中立者であり、表面中立を標榜しながら、陰に裏面で蔣介石援助の行動をなすものは敵である、と言ふことを明瞭にして、帝國外交政策の根本方針を確立せねばなりません。而してこの根本方針によつて、千變萬化の國際政局に應酬し、大膽果敢に行動することが緊要で

あります。

諸君、我々大和民族の將來は、洋々乎としてその勢力はたしかに、世界を動かす偉大なものがあります。諸君、我日本帝國は、萬世一系の皇室を戴き、世界無比の勇敢なる、陸、海、空の三軍を有する神國として、天祐ある國家であります。こゝに諸君の御自重御自愛を祈つて、この講演を終わります。

(昭和十四年九月十一日午後八時三十分 J・O・A・Kより放送)

あとがき

これまで随分知名の人の時局講演を聞いたが、去る九月十一日J・O・A・Kから放送された安達さんの『國際狀勢と日本の地位』と言ふ講演ほど、私の心魂を湧きたせたるものはない。一時全く私はラヂオの前に釘づけにされてしまった。無論安達さんはしゃべることが下手ではない、併し、上手にしゃべると言ふなら、安達さんよりも達者な講演は幾人も聞いて居る。當夜私をラヂオの前に釘づけにしたのは決して安達さんの辯舌の技巧ではない、それはラヂオを通して惻々私達に迫つて來る安達さんの老を知らざる烈々たる憂國の情熱から迸り出る力強い一言一句だ。いづれも言外に意を含めた言葉ではあつたが、幾度私は心の中で感激の喝采を送つたらう、恐らく當夜の聴衆者の中には、私と同じく胸を轟かしたのも少くなかつたに違ひない。

私はこの講演をこのまゝ一夜の感激のうちに聞き流してしまふことは、いかにも惜しいと言ふよりは、寧ろ之を一億國民の腦裏に深く打ちこんで置かなくてはならぬと感じたので、安達さんから講演の草稿を借り受け、そのまゝ印刷に附したのだ。従つて、文中の標題や辭句の配列などは一切私の責にあることは言ふまでもなく。

昭和十四年十月

中外産業調査會

松下傳吉

396
356

第次人は衰盛の業事、しな業事てれ離を人

特報 經濟

毎月一回・一日発行

(錢十四金 價定)

所行發

(ルビ和昭)内の丸市京東

會查調業産外中

番八……五九五内の丸話電・番四八五三六京東替振



國際情勢と日本の地位

昭和十四年十月二十三日印刷
昭和十四年十月二十六日發行【定價十錢】

著作兼
發行者 松下傳吉

芝區新橋六丁目七四

印刷者 中村印刷所

東京市麴町區丸之内二丁目十八

發行所

合資
會社 中外電氣工業

96

96